

どうなる？ 大阪の夏！ ヒートアイランドをやわらげるために・・・

大阪の夏は、日本一暑いといわれていますね。どうしてそんなに暑くなってしまうのでしょうか。

都市部の気温が郊外に比べて高くなる「ヒートアイランド現象」。大阪市域は平らで、地理的にも暑くなりやすいうえに、昔に比べて、田畑や樹木が減り、建物が密集し、車が増え、電気やガスや燃料を、どんどん使う都市の生活が、その原因となっています。

環境科学研究所では、ヒートアイランド観測網のデータから、日中は市域東部が暑くなる一方、夜間は中央部が暑くなり、適材適所の対策が必要であることを明らかにしてきました。

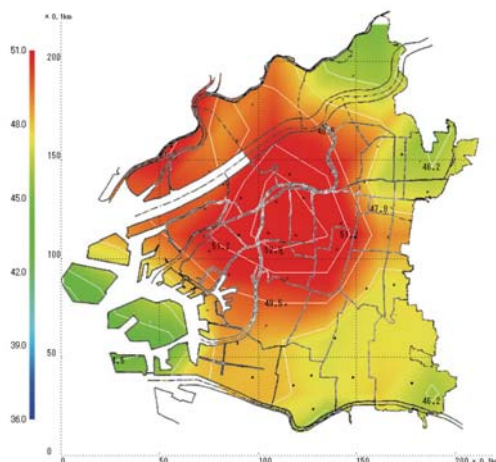
夏をすずしく過ごすために、大阪市は、省エネルギー策はもちろんのこと、さまざまなヒートアイランド対策に取り組んでいます。

大きなスケールの対策として、海からの西風を「涼しいまま」中心部まで導く「風の道」による街づくり構想もスタート。

研究所ではそれら対策評価の支援を行っています。

大阪市が取り組むヒートアイランド対策例

緑のカーテン	ゴーヤなどを植えて、窓辺や壁の日差しを遮る
緑のカーペット	サツマイモなどを植えて屋根を冷やす
運動場の芝生化	熱いグラウンドを芝生で快適に
ミスト散布	歩道や人の集まる場所を霧でひんやり
打ち水	焼けたアスファルトを冷ます
保水性舗装	地中の雨水をじっくり蒸散させ涼しい道に
遮熱性塗装	太陽の熱を遮る塗装で地面や建物を暖めない



図：2008年7月～9月の熱帯夜日数の地域分布
(48地点の観測データをもとに推定)

※2008年7～9月の熱帯夜日数が、赤色は約50日以上黄色は約47日となった地域を表しています。

(都市環境担当 榎元慶子)